URL　http://www.label-tokyo.com/　　Eメール　label@ka2.so-net.ne.jp

暑中お見舞い申し上げます。

ラベルニュース

No421

令和２年７月号

東京都ラベル印刷協同組合

編集:広報・情報システム委員会

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

TEL(3866)4561　FAX(5821)6443

新型コロナとＳＤＧｓの意義

持続可能な 17 の開発目標

新型コロナウイルスの世界的な流行によって、世界経済は壊滅的な打撃を受けていますが、今ここにきて「ＳＤＧｓ」に大きな関心が集まっています。

ＳＤＧｓは、サステイナブル・ディベロップメント・ゴールズ（Sustainable Development Goals）の略で、「持続可能な開発目標」と訳される。二〇三〇年までのグローバルな課題の解決に向け、世界の全ての人が協力しようという十七の目標（ゴール）を指す言葉で、二〇一五年九月の国連サミットで、加盟一九三か国の全会一致によって決まったものです。

■十七の目標

①貧困をなくそう
②飢餓をゼロに
③すべての人に健康と福祉を
④質の高い教育をみんなに
⑤ジェンダー平等を実現しよう
⑥安全な水をトイレを世界中に
⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに
⑧働きがいも経済成長も
⑨産業と技術革新の基盤を作ろう
⑩人や国の不平等をなくそう
⑪住み続けられるまちづくりを
⑫つくる責任　つかう責任
⑬気候変動に具体的な対策を
⑭海の豊かさを守ろう
⑮陸の豊かさも守ろう
⑯平和と公正をすべての人に
⑰パートナーシップで目標を達成しよう

そしてこの十七の目標を、より具体的にしたものが「一六九のターゲット」ということになります。

つまり、貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、二十一世紀の世界が抱える課題を包括的に挙げていることが分かると思います。

企業にとっては、いかにビジネスを続けるかという「持続可能性」が問われていますが、年明け以降、新型コロナウイルスの感染が中国から急速に世界中に広がり、日本でも緊急時代宣言が発令され、イベントの中止や外出自粛、飲食店の閉鎖といった動きが各国で相次ぎ、海外旅行客の激減や生産活動の落ち込みなど、暮らしやビジネスに甚大な影響を及ぼしています。

これはシール・ラベル印刷業界でも例外ではなく、食品や衛生用品などの一部を除いて軒並み影響を受けており、「持続可能性」に赤信号が点っています。

地球規模で人やモノ、資本が移動するグローバル経済の下では、一国の経済危機が瞬時に他国に連鎖するのと同様、気候変動、自然災害、感染症といった地球規模の課題もグローバルに連鎖して発生し、経済成長や、貧困・格差・保健等の社会問題にも波及して深刻な影響を及ぼす時代になってきていると指摘されています。

そのために今回の新型コロナウイルスの世界的な

流行によって、再びＳＤＧｓに目が向けられているのです。

いまや政府はもちろんのこと、大企業ではこのＳＤＧｓの十七の目標を大前提にして経営方針を立てています。

しかし、中小企業や小規模企業にとっても今後このＳＤＧｓを無視することはできず、すでにキリンホールディングスでは、「今後は価格と品質だけでなく、その企業が気候変動や環境対策をしっかり行っているかどうかを含めて、取引先を選んでいく」とする新たな調達方針を決めたという記事がありました。

シール印刷業者にとっても今後はユーザーがＳＤＧｓの意義を理解している業者を選択するようになると見られており、すでにリンテックを始めとしたタック紙メーカーも環境に配慮した製品の開発に取り組んでおり、こうした機会を契機に、我々もいま一度考え直す時機にきています。

ＳＤＧｓの認知度はわずか二七％です。

青年部が第36回総会を開催

親組合との融和を図り 三協組の活動は活発に

青年部は四月二十日(月)に、書面決議による第三十六回総会を開催し、事業報告、決算など各議案をすべて可決承認しました。

総会は第一号議案・令和元年度事業報告、第二号議案・令和元年度会計報告、第三号議案・監査報告、第四号議案・令和二年度役員改選案、第五号議案・令和二年度事業計画案、第六号議案・令和二年度予算案について審議し、可決承認されました。

【令和二年度事業計画】

基本方針

二〇二〇年に入り新型コロナウイルスの影響により二月下旬から大規模イベントが中止となり、三月から学校も休校、四月には緊急時代宣言が発令され、ますます行動が制限されることになり、青年部も今は人が集まる活動が出来なくなっています。経済活動も停滞し、今後の先行きが全く見えない中にありますが、まずは健康第一でご家族従業員の皆様が肉体的、精神的にもご健勝であることを祈っています。

青年部の行動は、いつ収束していくかもわからない状況ですので、Ｗｅｂ会議なども活用することも検討しながら継続していく所存です。

近年部員数減少で個々の負担が多く似っているので、ラベル青年部としての企画運営するイベントは無理のない範囲で行っていこうと思っています。

ミニ機材展や年次大会など親組合がかかわるイベントにも参画し、親組合との融和も図ってまいります。

関東三協組の活動は昨年度も活発で、東京都正札シール印刷協同組合、神奈川県シール印刷協同組合ともに活動、企画運営を共にする機会が増えています。

青年部も関東三協組として参加いただいている組合員の皆様に有益な情報交換や刺激のある活動を行うために積極的に参加していきます。

東京UBA・印青連のイベント参加も引き続き行い、異業種、他業種との交流を図っていまいります。

部員数減少により、今後の活動をどのようにしていくべきか、今期はラベル青年部の未来を考える一年になります。引き続き青年部の活動にご理解を頂き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

事業方針

１　青年部の活動促進、役員相互の交流

２正札・神奈川青年部との研修及び交流

３定期的な勉強会・研修会の開催。

４印青連・中央会を通じて同業種、異業種との交流

５Ｗｅｂを通じた情報交換や交流・発信活動（ＳＮＳ等）

６親組合との相互連携

最近流行っている18歳と81歳の違い　大いに笑ってください!

①人生につまずくのが18歳	段差につまずくのが81歳
②心がもろいのが18歳	骨がもろいのが81歳
③恋におぼれるのが18歳	風呂でおぼれるのが81歳
④道路を暴走するのが18歳	道路を逆走するのが81歳
⑤知らないことが多いのが18歳	忘れたことが多いのが81歳
⑥酒場でウロウロするのかが18歳	家の周りをウロウロするのが81歳
⑦ヘアスタイルを変えられるのが18歳	変えようにも変えるものがないのが81歳
⑧自分探しをしているのが18歳	みんなが探すのが81歳
⑨自動車の免許がとれるのが18歳	自信がなくなり返すのが81歳
⑩偏差値が気になるのが18歳	血糖値が気になるのが81歳
⑪まだ何も知らないのが18歳	もう何も覚えていないのが81歳
⑫テレビドラマの続きが気になるのが18歳	続きが見られるか気になるのが81歳
⑬人の話を聞かないのが18歳	人の話が聞こえないのが81歳

第三〇回シールラベルコンテスト
七月一日より応募開始、八月二十日締切り

全日シール連合会主催の「第三十回ラベルコンテスト」は、今年も七月一日より応募が開始され、八月二十日が締め切りとなっています。

今回も例年通り①規定課題（レタープレス・平圧式凸版印刷と輪転・または間欠輪転式凸版印刷）と、②自由課題に分かれています。

応募規定は次の通り。

①各所属協組に配布された、応募用紙に必要事項を記入し作品をセパレータごと貼り付けたもの三部。（審査会で主に使用する）セパの貼り替えは失格とします。

②作品を1枚カットにしたもの百枚（作品アルバムに使用するため。及び、世界ラベルコンテストで他国の審査委員に渡すので美品が必要）

③連続印刷百枚のロール状の作品

連続作品の提出が出来ない場合はその理由を明記すれば協議の上、審査対象になります。

なお、新型コロナウイルスの影響により、応募点数が例年の七割以下の場合コンテストは不成立となり、来年の三十一回と統合して審査が行われることになります。

応募要項の詳細は左記のホームページから。

http://www.seal.gr.jp/

第62回年次大会東京汐留大会

長い歴史の中で初の中止
コロナウイルスの影響で

全日本シール印刷協同組合連合会(田中祐会長)は、今年の十月十六日(金)に開催を予定していた「第六十二回年次大会東京汐留大会」の中止を決定いたしました。

これまで新型コロナウイルスの影響により、開催、中止、延期について、検討してきましたが、このほど「中止やむなし」の結論に至りました。

第六十二回年次大会・東京汐留大会中止に伴って、式典で開催していました「シールラベルコンテストの表彰式」も中止となりますが、今年の「第三十回シールラベルコンテストの表彰社（者）におかれましては、通常通り「表彰状」「入賞トロフィー」を十月十六日付けで授与(送付)させて頂きます。

なお、第三十回シールラベルコンテストのセレモニー関しては、二〇二一年十月十五日開催予定の第六十三回年次大会・金沢大会で第三十一回シールラベルコンテストの表彰と一緒にセレモニーを行う予定。

■第六十二回年次大会・東京汐留大会の中止に関連して

①第三十回シールラベルコンテストの表彰は通常通り表彰。

②第三十回シールラベルコンテストの表彰セレモニーは二〇二一年金沢大会で実施予定。

③第三十回シールラベルコンテストの作品展示は各協組の勉強会等で展示出来るように準備。

④二〇二〇年組合功労者表彰は中止。→二〇二一年年組合功労者表彰は実施いたします。

リンテック相談役
庄司昊明氏が逝去

リンテック株式会社の社長、会長を歴任された庄司昊明氏が、六月十三日に急性じん不全のため、逝去されました。享年九十四歳。

氏は大正十五年(一九二六年)二月十一日に宮城県仙台市で生まれ、昭和二十五年三月に東北大学法学部卒業、同年四月本州製紙に入社。昭和三十五年四月に不二紙工入社、同年取締役。

昭和三十八年五月に常務取締役、昭和四十二年五月に専務取締役、昭和五十七年十二月に取締役副社長、昭和六十一年十二月にＦＳＫ代表取締役社長に就任、平成十年六月リンテック代表取締役会長、平成十六年六月名誉会長、平成二十六年四月相談役。

氏は塩飽望氏とは奥さん同士が姉妹という関係で、不二紙工、ＦＳＫ、リンテックでは、塩飽望氏とタッグを組み、製紙会社出身から製紙連合会を始めとする財界活動にも積極的に取り組み、塩飽望氏亡き後はメーカー会や協賛会会長としてシール・ラベル印刷業界にも多大な貢献をされた。

塩飽望氏を静とするなら、庄司昊明氏は動で、その小柄な体からどこにそんなバイタリティを秘めているのかと思うほど豪快で、よく食べ、よく飲む、まさに健啖家は長生きをするといわれている見本のような人でした。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

なお、告別式は六月十八日に近親者のみで執り行われ、後日「偲ぶ会」を開催予定ですが、新型コロナウイルスの影響により日時は未定。

振り返れば五十年　私のラベル業界半世記

専務理事　本間敏道

私がこの業界に足を踏み入れたのは、昭和四十五年に当時の日本包装タイムス社（現・日報ビジネス）に入社した時からです。

週二回発刊していた「包装タイムス」の編集部記者として、外装分野の担当ということになり、外装の一部でもあるラベル業界も担当することとなりました。

当時は包装に大きな革命が起き、包装業界は日の出の勢いで、包装タイムス社も全国で「新しい包装展」を開催し、北は北海道から南は九州まで、主要な都市で開催され、展示会は多くの来場者で溢れかえっていました。

段ボールの製函機や製袋機、ＰＰバンドを使用する梱包機、ＰＥひもを使った結束機、粘着テープを使った封函機、ハンド用ラベラー、自動のラヘリンクマシン等々。

「新しい包装展」以外にも、包装技術協会主催の「東京パック」や日本包装機械工業会主催の「ジャパンパック」が毎年交互に当時の晴海の国際展示場で開催されていました。

私が入社した当時の包装タイムスは、東京本社と大阪支社を合わせると編集部、営業部、制作部、総務部で百人を超す社員がおり、業界紙、専門紙としては大手の部類に入りました。

現在、流通情報ラベル社で活躍している清島宣勝氏（営業部）と大槻勉氏（編集部）は、私よりも一年前に入社していました。

私が記者として初めて書いたのは、いわゆる業界短信という記事で「ニチバン、埼玉工場移転」という五行ほどの記事でしたが、五十年たった今でも忘れてはいません。

今でこそ「自動認識システムのサトー」として、知らない人はいませんが、当時は「ヒット結束機のサトー」として有名で、展示会でもハンドラベラーとともにメインの商品となっていました。

ハンドラベラーは当時の花形商品で、サトーを筆頭に服部時計店、新盛インダストリーズ、共和、トーワ、坪井製作所等々数多くのメーカーがしのぎを削っていました。

また、リンテックも当時は不二紙工として、ガムテープが主力製品となっており、展示会にもガムテープ封函機を出展、粘着紙が主力になってくるのはその後でした。

外装分野担当でしたから、この他にも緩衝材や接着剤などの業界にも取材を行い、緩衝材の木毛やエアキャップ、接着剤のセメダインやボンドの小西儀助商店（現コニシ）などにも足を運び記事を書きました。

セメダインを取材した際に、担当者からセメダインという名称は、創業当時隆盛を極めていたイギリス製の「メンダイン」という商品に打ち勝とう、日本の市場から攻めだそうという意図から付けられたという話を聞いたのを今でも覚えています。

当時は月に一回「中部版」というページがあり、東京の編集部が交代で二人一組で取材に行きました。事前にアポを取るわけですが、「包装タイムス」というと、「放送タイムスですか」と聞き違えるところが多く、そのたびに「包む方の包装です」と説明したもので、まだ「包装」というものが一般には認知されていませんでした。

「過剰包装」などということが社会問題になり批判を浴びたのは、これよりもだいぶ後でしたから、隔世の感があります。

「包装」はそれまでの木箱から段ボール箱へと移行し、当時の高度経済成長とも相俟って、右肩上がりで大きな産業へと成長したことは言うまでもなく、外装の一分野であったシール・ラベルも例外ではありませんでした。

（続く）

No171 健康がいちばん!

中高年のアルコール依存症

20年以上の飲酒習慣は要注意

■増加する中高年のアルコール依存症

酒は“百薬の長”と言われていますが、長年にわたって過度の飲酒を続けると、肝機能障害や糖尿病、高血圧など生活習慣病リスクが高まることはよく知られています。ここ最近、中高年のアルコール依存症が増えているのです。

■全国で患者は百九万人

厚生労働省の研究班の調査によれば、日本でのアルコール依存症患者は百九万人と推計されています。依存症になるリスクの高い飲酒者（純アルコール摂取量が一日平均男性四〇グラム以上、女性二〇グラム以上）は一〇三九万人にも及びます。純アルコール二〇グラムの目安はビール中瓶一本、日本酒一合、ウイスキーはダブルで一杯です。

特に近年の傾向では、高齢化社会に伴ってアルコール依存症患者の高齢化も急速に進んでいます。

定年退職や単身赴任などで、生活環境が変わるタイミングが要注意です。飲酒習慣のある人はどうしても気持ちが緩み、節度ある飲み方ができなくなることがあります。しだいに抑制が利かなくなり、昼夜問わず飲むようになります。

サルを使った実験でアルコールを与えると止まらなくなり、ひたすら摂取し続ける。これと同じことが人間の身体や脳にも起きます。本人の意思にのみ委ねることのできない病気なのです

■怖いのは肝機能だけでなく脳の機能も

真面目に働いてワーカホリックになるような人ほど依存症になりやすい。企業人としてのアイデンティティーを失ったストレスから、六十五歳定年から一～二年後に入院する人が増えています。けれども結局、酒をやめられずに自殺、事故死する人が多い。吐しゃ物を喉に詰まらせての窒息死や、石油ストーブをつけっ放しにして一酸化炭素中毒死するケースも珍しくありません。この病気の怖さは酒をやめられなければ、死ぬまで飲み続けてしまうということです。

アルコール依存症は短期間のうちになることもありますが、通常は男性の場合二〇年以上の飲酒習慣を続けていく中で酒量が増加し、顕在化するといわれています。

酒を飲んで記憶がなくなることを、ブラックアウトといいます。時にハメを外して飲みすぎ、記憶をなくした経験があるという人もいるでしょう。だが、アルコール依存症者は問題行動とブラックアウトをくり返し、長年にわたって記憶の欠損が生じることになります。

アルコールの影響を考えるとき、肝臓のデータばかりに気を取られがちですが、恐ろしいのは脳の機能に深刻なダメージを与えることだといわれています。

私たちの周りを見渡しても、アルコール依存症ではないかと思う人が結構いるものです。家族や周りの人が早めに気が付いて、治療を受けさせることも大事です。そこのあなた、大丈夫ですか。

同時にアルコールは「依存薬物」で、アルコール依存症は自分の意思で飲酒をコントロールできなくなる病気です。

毎晩のように深酒をして会社を欠勤するようにな り、失職してしまう人もいます。また、一度飲んだら止まらなくなり、配偶者への暴言や暴力、子どもへの虐待などの社会的な問題を起こすこともあります。

【参考資料】

https://diamond.jp/articles/-/155039